

バンディングかわら版（第2号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）を野鳥につけて放鳥し、その後、その鳥が再発見されることで、移動や寿命について調べられる調査方法です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始され、現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）が参加して調査が行われています。

注）この調査は、野生の鳥を捕獲するための特別な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。



野鳥に装着する足環。これを装着することを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と呼びます。

標識調査からどんなことがわかるの？

絶滅危惧種コアジサシは出生地からどのくらい離れた場所で再発見（回収）されるのか

コアジサシ（右）は日本で巣立った後、オーストラリアなどで越冬し、数年後に繁殖のために日本に戻ってきます*。



写真協力：丹野輝英・佐藤達夫・竹丸勝朗

*日本に戻る年齢は1歳、2歳の個体が少数いますが、大半は繁殖年齢とされている3歳以上です。

出生地に戻る個体もいますが、別の場所へ行く個体もいます。今回は別の場所へ行く個体に着目します。日本のどこに移動しているのでしょうか？

出生地から繁殖期の回収地までの距離は、平均約99km、中央値35km（最短5km～最長531km）でした。

注）n=175（解析に用いたコアジサシの移動回収データは1961年～2017年のもので、このうち右表説明の条件に該当する個体数）。

3歳以上の個体では、**出生地の同一県内や隣県のどこかを繁殖地にしているものが多いと考えられます。**

注）すべての個体が繁殖中に回収されているというわけではありませんが、回収場所は繁殖地に近いと推測されます。

本種の保全には、繁殖地と移動分散先の関係者間の連携が重要といえます

より詳しく知りたい方は調査報告書をご覧ください（<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>）

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
山階鳥類研究所 保全研究室 鳥類標識センター
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342
E-mail: BMRC@yamashina.or.jp

標識県	回収県	例数
新潟	新潟	9
	長野	5
茨城	宮城	3
	茨城	6
	千葉	4
千葉	宮城	4
	茨城	8
	千葉	38
	東京	5
	静岡	7
静岡	愛知	3
	千葉	4
	静岡	23
愛知	静岡	7
三重	千葉	4
	静岡	5
	愛知	5

「放鳥時（0歳の雛や若鳥）の県（標識県）」と「再発見された県（回収県）」の組み合わせ（3歳以上に限定。県順。3例以上を示した。

どんな鳥が何羽くらい再発見（回収）されているの？

足環をつけて放された鳥が、2018年に別の場所
所で回収された例数は86種1,265羽（前年より
105例増）でした。国内で足環をつけ国内で再発
見された例数の上位3種は、オオジュリン（305
羽）ユリカモメ（265羽）オナガガモ（82羽）
です。1961年から2018年までの累計例数は、
259種、約3.9万羽（39,353羽）となりました。



標識調査からどんなことがわかるの？

スズメの減少の解明に貢献しました！



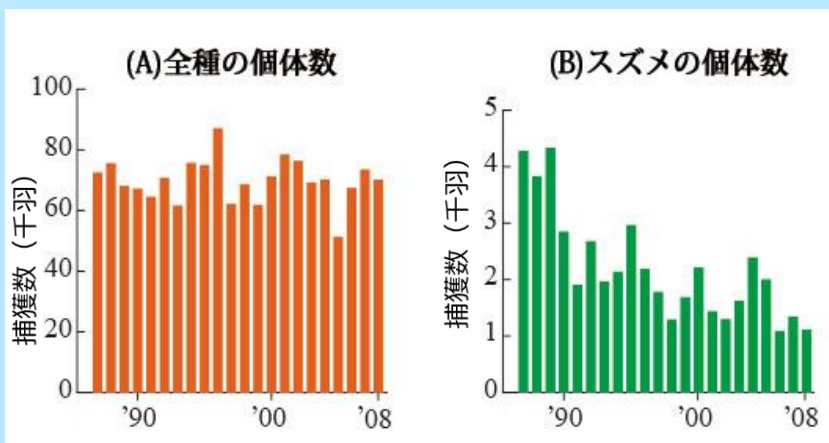
撮影：森本 元

スズメは日本人にとって最も身近な野鳥です。「減少しているのかも？」と言われることもありましたが、本当に減っているのかどうか、はっきりしていませんでした。

それを解明するための研究が、様々なデータを用いて多角的に行われました。

その一つとして大きく役立ったのは、**全国規模で長期に蓄積された標識データ**なのです。

約20年間のデータを見ると、解析対象とした調査地では、さまざまな鳥が毎年7万羽ほど変わらず捕獲され続けていました。
(グラフA: 捕獲された全種の個体数の合計)



ところが、その中からスズメだけを取り出すと、どんどん減っていることがわかります（グラフB）。
毎年同じように調査をしているので、これはスズメ自体の数が減少していることを意味します。

標識調査のデータから、スズメが大きく減っていることが客観的に示されたのです。

より詳しく知りたい方は、以下の論文をご覧ください。

三上修・森本元 (2011) 標識データに見られるスズメの減少. 山階鳥類学雑誌, 43(1): 23-31.